

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0570406207
法人名	医療法人 光智会
事業所名	グループホームおおだて
所在地	大館市片山町3丁目14 番14号 (電 話) 0186-49-2240
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年10月7日

【情報提供票より】(21年 9月 21日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 9月 11日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	8 人 常勤 8人, 非常勤 人, 常勤換算 8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 4階建ての ~ 3階部分
------	-----------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 ( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	260 円	昼食	370 円
	夕食	340 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

### (4) 利用者の概要 ( 9月21日現在 )

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名		
要介護3	8 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 76.1 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 光智会 西大館病院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

元病院の建物の3階にあるが、病室という雰囲気を払拭するような様々な工夫がされている。エレベーターで3階に上がると、正面には「ようこそグループホームおおだてへ」の大段幕があり、廊下には季節感あふれる暦や小物が飾ってある。3階のベランダを活用して、野菜作りをしている。この建物の2階で行われているデイサービスの利用者との交流や地区の婦人会のボランティアの交流、利用者の家族の歌謡ショー等が開催されており、開放的な事業所である。さらに利用者が出来るだけ地域に出掛ける機会を作り、ドライブや外食行事等を企画している。地域に密着した開放的な事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で挙げられた、アセスメント、モニタリングの記録の仕方等について、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の内容を踏まえて、職員間で話し合いをして今回の自己評価を作成している。管理者や職員は外部評価の意義を十分に理解しており、積極的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3ヶ月に一回の運営推進会議では、事業所の日頃の活動を紹介したり、外部評価の内容を報告している。会議の中で、地区の婦人会の会員にもグループホームの取り組みを紹介して気軽に訪れて貰うように努めている。秋にきりたんぼ会を企画している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が意見や要望を自由に出せるように、毎月1回相談日を設けている。入口に「苦情受付箱」を設置している。「心の声を聞かせて下さい」の添え書きがあり、些細な声でも出して貰い、事業所の運営に活かそうとする姿勢が伺える。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内のスーパーへ買い物に行ったり、少人数で外食等に出掛けたりしている。また、地区の婦人会のボランティアが訪れてお茶会を開催する等、日常生活で、地域との連携を重視し地域社会との繋がりを大事にしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員一人ひとりが、自分はどんなグループホームで生活したいかを考え、家庭生活の延長のように、普通の生活ができるようにしようとする思いがこもった理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の玄関をはじめ、食堂やトイレ等、いたる所に理念を暖かみの感じられる文字で掲示して、その実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	できるだけ地域の住民とふれあう機会を造るよう努め、交流している。婦人会のボランティアがお茶会をしたり、地区の神社の祭典に参加したりと、地元住民と交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員が共に外部評価の意義を理解して、前回の評価で挙げられた課題について、改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回会議を開催して利用者の状況や外部評価の内容を報告している。そこで、出された意見で、婦人会の会員に事業所へ気軽に訪れてもらう等、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議にて、市の担当者との連携が出来ている。又、認定調査の際、職員との情報交換等を行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に「ぬぐだまる」という事業所の会報を送付して、日頃の様子を報告している。毎月の金銭管理の状況を、レシート・領収書と共に送付して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1回相談日を設けて家族の意見、要望を出して貰うように努めている。面会時に、些細な事でも出してもらうように声かけをしている。又家族との連絡帳を作り、全ての職員が家族からの連絡事項を把握するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	産休代替や異動があっても、利用者との対応や業務に慣れるまでは、他の職員と2人一組になって、利用者がダメージを受けないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を始め、経験の多い職員が他の職員の悩みや相談に応じて、日々の業務の中で、共に研鑽し合う体制が出来ている。法人内外の研修にも参加して、その内容を全職員で共有しようと努めている。職員が自己研鑽した情報を他の職員に伝えて、事業所のケアサービスの質の向上に繋がっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の事業所の職員とは、常に情報交換する機会があり、それをサービスの質の向上に活かしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	利用者が自宅で生活していた暮らしを、そのまま延長して暮らせるように、馴染みの物を持参してもらう等、本人が安心出来るように努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所内は、常に利用者同士や職員との会話であふれている。利用者が得意なことをみんな認めて合せて、共に支えあう関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や日頃の様子をよく観察して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合でも、そっと寄り添う姿勢を取っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の申し送りやカンファレンス等で職員が本人や家族の希望を話し合い、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画を見直している。又状態に変化があった場合は、家族等とよく相談して介護計画を変更している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ法人で行っているデイサービスセンターの利用者との交流を行っている。又、訪問看護事業所を利用して医療との連携を行っている。今後はショートステイの利用を検討する等、利用者の立場でより良いケアを目指して柔軟な対応ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関を受診出来るようにしている。又、訪問看護事業所を利用しており、毎日の利用者の状況を報告して緊急時の対応も出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に向けた指針を作成して取り組みに向けて検討している。家族の希望に沿えるように、早い段階からの相談を進めている。		
<b>とり</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心や感情に配慮した声かけに努めている。個人情報の取り扱いについては、利用者や家族に説明して同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅での生活の延長にある暮らしを目指して、一人ひとりのペースに合った生活リズムになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は、利用者が盛り付けを行い、同じテーブルで職員と一緒に食事を摂っている。食事が終わった際は、一人ひとりが自分の食器を台所まで持って行っている。食事中も利用者から「美味しいね」の声が絶えず、和やかな雰囲気の中で楽しんで食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、入浴日を決めている。利用者から希望がある時にはそれにとらわれず、その都度健康状態に配慮しながら、対応に努め、入浴を楽しんでもらえるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が得意なこと、好きなことができるように、外食、買物等の機会を多くしている。ベランダで野菜を作り、それが食卓に上がり喜んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ事業所の外へ出掛けようと、少人数の食事会を作ったり、地域のスーパーへの買物を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	居室には鍵をかけておらず、自由に出入り出来る。建物の3階にあるので、居室の窓は、ロックになっているが、利用者からの不満はない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に法人全体で避難訓練を行っている。災害の種類によって、4種類の避難訓練をする予定である。3階にある為、避難用の滑り台も設置されている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3ヶ月に一回、法人内の栄養士から献立の指導をして貰っている。毎食に食事量と水分量を記録している。利用者の状態に合わせて刻み食やお粥にしている。又、食事量に応じて茶碗の大きさを変えている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感あふれる暦や押し絵等が掲示されている。台所が対面式になっており、利用者と職員が心地よく過ごせるようになっている。今後は事業所内で、野菜作りを行い、利用者が土に触れる機会を作ろうと計画している。		建物の構造上の制約はあるものの、木箱等に寄せ植えした季節の植物を置き、それに利用者が水を与える等、自然や季節感をより感じとれる工夫に期待する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自宅で使用していた物を持ち込んで、それぞれがくつろげる居室となっている。職員は、遠慮しないで使い慣れた物を持ち込むように声がけしている。		元病室であった部屋が、居室になっているため、転倒の危険性を十分に考慮した上で、暖かみのある床にする等、更に居心地の良い居室になるように努めることを期待する。

※  は、重点項目。